

第2回腎臓病教室のご報告

- 令和元年6月6日（木）に、ふたばホールにて開催しました。
- 今回のテーマ：「慢性腎不全と市販薬について」
「治療用特殊食品の選び方」
- 28名の方に参加いただきました。



患者様・家族
総勢45名

慢性腎不全と市販薬について

担当：
薬剤部 部長 小林 肇



腎臓病の方が避けた方がいい 市販薬の成分①

- 成分 解熱鎮痛薬（ロキソプロフェン・イブプロフェンなど）
- 含まれる市販薬 風邪薬・痛み止め・解熱剤
- 作用 熱を下げたり痛みや炎症を抑えます。
- 腎臓病の方への影響 腎臓の血流を低下させ、腎機能を低下させることがあります。



治療用特殊食品の選び方

担当：
管理栄養士・腎臓病療養指導士
田中 奈美恵



参加者のご感想

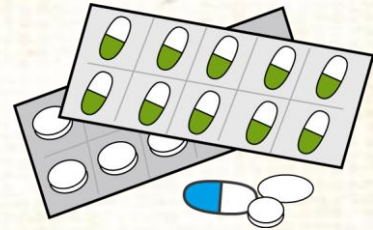
- 薬については、あまり説明も受けずに処方されているので、何を飲んでいるのか分からないし、聞きづらいので、このような教室があると大変ありがたいです。
- 市販薬をついつい服用してしまっているので、（腎臓にとって）非常に危険な事がわかりました。
- とても勉強になりました。食事は難しい
- 娘が腎臓病で、食事療法を行っております。サンプルの食品や資料を娘に送っています。
- いつもご丁寧にご準備下さり、分かりやすく教えて下さいましてありがとうございます。感謝しています。
- 聞くだけでも勉強になります。
- 腎臓病と言われたらもう遅い。そうならない為には生活習慣の大切さを感じる。
- 食品サンプルの使用方法を教えてもらったので、使用を心がけたい

慢性腎臓病（CKD） Q & A

このコーナーでは、みなさまから寄せられた慢性腎臓病（CKD）の療養についてのご質問にお答えしていきます。今回は、4月4日の腎臓病教室でのアンケートでの「腎臓病と薬」について聞きたい事は？という質問に対しいただいた4つのご質問にお答えします。

Q1 娘がIgA腎症でステロイドの治療を受けており、その副作用がきつくて救急車で運ばれました。

Answer1



- ステロイドとは副腎から作られるホルモンの1つで、**体内の炎症を抑えたり、身体の免疫力を抑制する作用**があります。腎臓病では、ネフローゼ症候群・IgA腎症・糸球体腎炎・尿細管間質性腎炎で使用されます。
- 服用中の注意としては、**急に薬を飲まなくなると、身体のスステロイドホルモンが不足し、倦怠感・吐き気・頭痛・血圧低下などの症状があらわれる事があるので、自己判断での内服中止は危険**です。
- 副作用としては、**免疫力低下により感染症にかかりやすくなる・骨粗鬆症・糖尿病・血管内で血液が固まってしまう血栓症、高脂血症・高血圧・むくみ**などがありますが服用している全ての人に認められるものではありません。非常に稀ではありますが、**過敏症（アナフィラキシーショック）を起こす事があり、この場合緊急的な治療が必要**になります。

Q2 母が片腎で今尿酸値を下げる薬を飲んでいます。

Answer2

- 腎機能低下に伴って尿酸排泄低下により高尿酸血症の頻度は高まります。
- 高尿酸血症は動脈硬化や慢性腎臓病の進展に影響を及ぼす可能性もありますので尿酸管理も慢性腎臓病（CKD）治療には重要となります。
- CKDの**尿酸管理目標は7.0mg/dL以下**です。

Q3 血圧を下げる薬が中心の様ですが、腎臓病の治療になるのでしょうか？

Answer3



- 血圧管理は慢性腎臓病（CKD）治療では初期から重要となります。
- 高血圧は腎臓の細い血管を障害し慢性腎臓病（CKD）の原因となったり、CKDを悪化させる事が知られています。
- またCKD自体も高血圧の原因となり、高血圧を悪化させる事も知られています。
- CKDの**血圧管理目標は130/80mmHg以下**で、血圧管理を行う事で腎臓が悪くなるのを遅らせる事ができます。
- また、**降圧剤（血圧の薬）**により**蛋白尿が減少する効果**もあります。

Q4 腎臓病の薬はどのような物があるのか聞かせてほしいです。

Answer4



慢性腎臓病（CKD）の治療では、

- ① 腎臓病と高血圧の悪循環を断ち切る為、**高血圧の薬**。
- ② 糖尿病は腎症の原因や進行の原因となる為、**糖尿病の薬**。
- ③ 高コレステロール血症は心疾患と腎臓病の進行の原因となる為、**脂質異常症の薬**。
- ④ 高尿酸血症は慢性腎臓病の原因や進行、心疾患の原因と関連する為、**高尿酸血症の薬**。
- ⑤ 慢性腎臓病が進むと腎性貧血を発症する為、**貧血の薬**。
- ⑥ 末期腎不全の際には、**尿毒症に対する薬**。

など、慢性腎臓病の原因が明らかに出来れば、その治療を行う為、様々な薬が処方されます。また、原因が明らかでなくても、ステロイドや免疫抑制剤の投与が適応となる事もあります。



次回腎臓病教室は
8月1日（木）です。

テーマ	担当
腎臓病の運動療法	リハビリテーション部
サルコペニア・フレイルと腎臓病	管理栄養士

お問い合わせ

公益財団法人丹後中央病院
TEL:0772-62-0791（代）

主治医・外来スタッフにおたずねいただいても結構です。